

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞ 水稻
＜産地の現状・課題＞

愛知県では中生品種「あいちのかおりSBL」の作付面積が全体の約40%を占め、乾田直播栽培の不耕起V溝直播栽培(以下V直)にも適していることから、多くの大規模農家がV直で栽培している。しかし、近年の夏季高温により1等比率は50%程度と低迷しており、特にV直は8月中旬から出穂することから、高温障害による品質低下が起こりやすい。また、V直は全量基肥で栽培され、倒伏しにくい栽培方法であることから多収を目指し施肥量が多くなりやすいため、過繁茂になり籾数が増加し高温による充実不足から玄米品質低下が起きやすい。そこで、農業総合試験場とJAあいち経済連は、V直用の慣行肥料の前半溶出の3割を後半にする「後半重視型肥料」を開発した。慣行肥料を後半重視型肥料に替えることで、過繁茂を抑制し、窒素成分2kg/10aの追肥と同等の効果が確認された。

令和6年に県全域で着色米(腹黒米、黒点米)が多発した。生産者は色彩選別機の感度を上げ対応したものの、精米しても着色部分が除去できない玄米があり検査等級が低下した。令和6年に出穂前後の2回防除を実施した農家では発生がなかったため、現場では防除実施農家が増加している。

2 検討体制

＜愛知県組織と関係機関の役割＞

- ・農業水産局農政部農業経営課(事務局)
- ・農業革新支援センター(事業のコーディネート、検討会参加、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略のとりまとめ)
- ・普及指導センター(農業者との調整、実証ほの運営管理、調査、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の検討、検討会参加、産地への情報提供、普及支援)
- ・農業総合試験場(試験方法・結果に関する助言、検討会参加、栽培マニュアル、産地戦略の検討)
- ・農業者(実証ほの栽培管理、技術の実証、データ収集)
- ・JAあいち経済連(技術支援、検討会の参加、栽培マニュアル、産地戦略検討)・JA(農業者との調整、実証ほの運営援助、調査協力)

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学肥料の使用量の低減	施肥	＜取り入れる技術＞ 後半重視型肥料の利用
		＜見込まれる効果＞ 全量基肥で後半重視型肥料を利用することで、窒素成分量で2kg/10a(16%)の追肥を省略することができる。
化学農薬の使用量の低減	病虫害管理	＜取り入れる技術＞ AgriLookを活用して出穂期を予測し、防除効果が高い出穂期以降の防除を実施。また、後半重視型肥料の利用で過繁茂を抑える耕種的防除を合わせて実施する。
		＜見込まれる効果＞ 黒点米、腹黒米の発生抑制のための防除を2回から1回に削減する。

4 活動内容(予定)

- ①「あいちのかおりSBL」の不耕起V直播栽培において、基肥に後半重視型肥料を使うことで、追肥をしない品質向上効果を検証する。
AgriLookの生育診断にある幼穂形成期の植生指数(NDVI)により、生育の良否を検証する。
- ②出穂期以降の防除回数を1回にするためAgriLookで出穂期を予測し、感染時期である出穂期での適期防除する。
AgriLookに掲載されている出穂期の植生指数(NDVI)により、生育の良否を検証する。後半重視型肥料を使い、水稻生育の過繁茂を抑制する。開花期の下葉枯れを抑制、落水時期により発生を抑制できるか検証する。